3-10 祭り

周囲を山に囲まれた滋賀県は、近江盆地の中央に琵琶湖を抱え、その湖岸部に大津・彦根・長浜・近江八幡など主要な町が発達してきました。特に規模の大きな祭は、こうした湖岸の町で催され、長浜曳山祭、大津祭、日吉山王祭、八幡祭などがそれにあたります。これらの祭礼は、時代とともに変遷を重ねて現在のようになっていると考えられます。一般的に、長浜曳山祭、大津祭、日吉山王祭は、湖国三大祭と呼ばれています。

1. 長浜曳山祭(4月14日～16日)

写真3-10-1 長浜曳山祭

長濱八幡宮の春の祭礼として行われます。曳山にしつらえた舞台で上演される子ども歌舞伎が見所です。曳山には、豪華な彫刻や飾り金具、絵画などが曳山の各所に施されるとともに、ベルギー製や中国製の幕で飾り立てられ、人々を驚かせる趣向となっています。曳山の古い形式を残すとされる長刀山と、12基の舞台を持つ曳山から毎年輪番で4基が巡行します。歌舞伎を演じる子どもは、プロの役者から芸を仕込まれ、4月9日の「線香番」でその稽古の成果を披露し、13日の夕刻から自町での狂言が始まります。14日午後に八幡宮への登り山や夕渡り、15日朝の長刀組による太刀渡り、八幡宮前での奉納狂言、御旅所への巡行と奉納狂言などさまざまな行事が行われます。長浜市曳山博物館では、祭礼日以外でも実物の曳山や祭りに関する展示を見ることができます。

2. 大津祭(10月スポーツの日の前々日、前日)

写真3-10-2 大津曳山祭

江戸時代、琵琶湖の水運の港町と東海道の宿場町として繁栄した大津は、その経済力を背景にした曳山祭りが始められました。大津祭りの曳山は、13基の曳山があります。三輪の組み立て式で、豪華な飾り金具や外国製の見送幕などの懸装品(かけそうひん)で飾り立てられ、曳山に人形からくりがのるのが特徴です。宵宮には会所で人形を飾り、祭囃子(まつりばやし)を演奏します。本日では曳山が氏子域を巡行し、粽をまき、所望に応じて人形からくりが披露されます。大津祭曳山展示館では、祭礼日以外でも祭りに関する展示やお囃子の体験をすることができます。

3. 日吉山王祭（4月12日～15日）

比叡山延暦寺の門前町である坂本の日吉大社の祭礼で、3月の上旬から約一か月半にわたって行われます。東本宮の祭と西本宮の祭が複雑に絡み合いながら、4月12日から15日に中心的な行事が繰り広げられます。14日には神輿が神幸しますが、なかでも琵琶湖上に出ての船渡御（ふなとぎょ）が行われます。神輿は、御座船にのせられ七本柳の浜から渡御し、唐崎沖で粟津の御供が献納されます。その後、神輿は、比叡辻の若宮港から上陸し日吉大社へと還御します。

写真3-10-3　日吉山王祭

4. 近江八幡の火祭

近江八幡市内一円では、日牟礼八幡宮の左義長祭や八幡祭（松明祭）、篠田の花火などそれぞれ特徴的な火祭が行われています。日牟礼八幡宮の左義長祭は、3月の中旬に行われ、旧城下町の各町が毎年趣向を凝らしたダシが作られ奉納されます。4月中旬に行われる八幡祭の宵宮は、松明祭とも呼ばれています。葭や菜種がらなどで作られた形や大きさなども様々な松明が次々に奉火され、夜空を焦がします。

このほか湖辺には、大溝祭（高島市）やユネスコ無形文化遺産に登録された近江湖南のサンヤレ踊り（草津市・栗東市）、近江のケンケト祭り長刀振り（守山市、甲賀市、東近江市、竜王町）など特徴のある祭が多く伝えられています。

文化財保護課